

目次

〈広場の造形〉

マイナスこそプラスの表現 —描くという行為は常に選択と消去をとまなう—	坪田政彦	5
『敵討研屋辰蔵』考	出口逸平	15
『光と空間の詩人』と呼ばれた男 František Trösterについて	堀田充規	23
アーテーの彼岸のアンティゴネー —ジャック・ラカン『セミネール第7巻』読解の試み—	伊藤正博	35
点描画のモダニティ —木下あづき論—	木村和実	45
映画における“歌”の働き —市川崑、木下恵介、黒澤明の3作品を例に—	田之頭一知	61
澤田柳吉の作曲・編曲活動と楽譜出版に関する一考察	多田純一	73
近代建築研究と創作 —山形政昭の住宅建築—	芹澤秀近	85
〈書評〉		
田中敏雄『近世日本絵画の研究』 —忘れられようとする絵師に向けた熱心で真摯な調査研究—	河田昌之	97
総メディア異種格闘技時代の日本映画進化論	中川滋弘	109
泉大津市制70周年記念庭園について	福原成雄	117
熊本市動植物園、飯田市動物園に新たな展示をつくる	若生謙二	127
人間共存型ロボットにおける最適なモーションデザイン基本法則の抽出 —文楽人形遣いと共同研究から発見した人に感情を伝えやすい新構造ロボットを通して—	中川志信	139
マテリアル表現技法Iからの報告 —手で考えてみると—	トーマス・ベリー 平田芳厚 三木陽子 竹垣恵子 佐々田美雪	147

CONTENTS

It is “Minus” that is an Expression of “Plus.” —The act of drawing is always accompanied by selecting and erasing.	Masahiko Tsubota	5
A Study on “Katakiuchi Togiya Tatsuzo”	Itsuhei Deguchi	15
A Poet of Light and Space —František Tröster—	Atsumi Horita	23
Antigone au-delà de l’Atè —Une lecture du Séminaire Livre VII de Jacques Lacan—	Masahiro Ito	35
The Modernity of Pointillism — A study on Azusa Kinoshita’s paintings —	Kazumi Kimura	45
The Role of Song in Cinema : In the Case of Three Films of Kon Ichikawa, Keisuke Kinoshita and Akira Kurosawa	Kazutomo Tanogashira	61
A Study of the Activity of Composition, Arrangement and Score Publication of Ryūkichi Sawada	Junichi Tada	73
Design along with a Study on Modern Architecture —The housing works of Masaaki Yamagata —	Hidechika Serizawa	85
〈Book review〉 The Result of Serious Research on the Paintings and Painters in Process of Oblivion —Book review on “Research on Japanese Paintings of the Early Modern Period” by Toshio Tanaka—	Masayuki Kawada	97
The Evolution Theory of Japanese Movies in the Era of Struggling Games by All Media.	Shigehiro Nakagawa	109
A Garden Commemorating 70 years of the Incorporation of Izumi Otsu as a City	Masao Fukuhara	117
The Creation of New Exhibits in Kumamoto City Zoo and Iida City Zoo	Kenji Wako	127
Finding the Motion Planning Method which Communicates the Robot’s Emotion to Humans	Shinobu Nakagawa	139
Materials I: Expressive Qualities and Techniques —Learn through making —	Perry Thomas, Yoshiatsu Hirata, Yoko Miki, Keiko Takegaki, Miyuki Sasada	147

Cover Design / Yoshimaru Takahashi

《筆者》

伊藤正博	大阪芸術大学准教授(倫理学)
河田昌之	大阪芸術大学教授(日本・中・近世絵画史)
木村和実	大阪芸術大学准教授(西洋美術史)
佐々田美雪	大阪芸術大学教授(金属工芸)
芹澤秀近	大阪芸術大学教授(音楽音響)
多田純一	大阪芸術大学大学院嘱託助手(音楽学)
竹垣恵子	大阪芸術大学准教授(染織)
田之頭一知	大阪芸術大学准教授(美学、音楽哲学)
坪田政彦	大阪芸術大学教授(版画)
出口逸平	大阪芸術大学教授(日本文学)
トマス・ペリー	大阪芸術大学講師(スペースデザイン)
中川滋弘	大阪芸術大学教授(映画)
中川志信	大阪芸術大学准教授(ロボテックデザイン、プロダクトデザイン)
平田芳厚	大阪芸術大学非常勤講師(ガラス)
福原成雄	大阪芸術大学教授(造園)
堀田充規	大阪芸術大学准教授(舞台美術)
三木陽子	大阪芸術大学非常勤講師(陶芸)
若生謙二	大阪芸術大学教授(造園学)

《表紙制作者》

高橋善丸	大阪芸術大学教授(グラフィックデザイン)
------	----------------------

《編集後記》

大阪芸術大学紀要『藝術36』が完成しました。お届けいたします。

本号には、広場の造形、論文、制作と理論、書評、報告、誌上作品など計14篇掲載することが出来ました。

表紙は前号に引き続き、デザイン学科の高橋善丸先生にお願いしたところ、すばらしいセンスの趣ある装丁となりました。

制作と理論では芹澤秀近先生に、山形政昭先生を書いていただき、書評では田中敏雄先生の画書について河田昌之先生に書いていただきました。

毎年のことですが紀要編集担当の先生方には暑い夏休みでしたが出講していただき、編集全てにわたりご苦労をおかけいたしました。

また藝術研究所の松下陽子さんは本紀要作成の事務全般に当たって下さり大変だったと思います。

ありがとうございました。

藝術研究所長
絹谷幸二

大阪芸術大学 紀要 <藝術> 36

平成 25 年 12 月 1 日発行

発行／大阪芸術大学

大阪府南河内郡河南町東山 Tel.0721-93-3781

編集／大阪芸術大学藝術研究所運営委員会

委員長 美術学科・教授 絹谷幸二

実務委員 デザイン学科・教授 江尻幹子

建築学科・准教授 加治大輔

文芸学科・教授 笹谷純雄

写真学科・教授 高岡一彌

教養課程・准教授 田之頭一知

文芸学科・教授 出口逸平

芸術計画学科・教授 豊原正智

文芸学科・教授 長谷川郁夫

芸術計画学科・教授 山縣 熙

印刷／株式会社ウイング